

3月23日、デンマーク議会で、「気候変動に関する世界市民会議(WWViews)」プロジェクト開始

3月23日に、史上初の世界市民会議「温暖化について世界の市民はどう考えるか」(World Wide Views on Global Warming - WWViews)を実施する各国の担当者が初めて一堂に会することになった。この世界市民会議はCOP15の政府間交渉、及び、今後の世界の気候政策の行方に影響を与える機会を、市民に提供することを狙いとしており、世界44カ国・地域から60名が実施担当機関を代表して担当者として参加することになっている。この60名は今週コペンハーゲンに到着し、本プロジェクトの立ち上げに参加し、三日間にわたって民主主義、市民協議(citizen consultation)、及び、気候変動について討議する予定である。

日本の実施担当機関は大阪大学と上智大学である。

プロジェクトの開始

3月23日午後2時、コペンハーゲンのデンマーク国会において、各国の実施担当者のほとんどが出席のもと、開始のセレモニーが行われ、本プロジェクトは公式に動き出す。セレモニーは、国会議員で環境委員会委員長のステン・ガーデ氏が、各国の実施担当者、参加国の大使、国会議員、内外のメディアを招くという形で開催される。

各国の実施担当者は、3月23日から25日の間にコペンハーゲンで開催されるプロジェクトの立ち上げセミナーに出席する。このセミナーでは、9月26日に実施される世界市民会議で参加市民が経験する状況を、実施担当者が予行演習を行う予定になっている。また、COP15に参加する派遣団が経験すると想定されるように、本プロジェクト実施担当者は、44の固有の歴史を持った国と地域が、地域や文化、経済の発展段階の違いを超えた共通の土俵を作ろうとする際に生じる困難も経験すると予測される。

「気候変動に関する世界市民会議(WWViews)」プロジェクトについて

本プロジェクトはデンマーク技術委員会とデンマーク文化協会が企画及び組織した。このプロジェクトの中心となるのは、本年9月26日に世界44の国と地域で同時に開催される市民会議である。そこでは、市民がCOP15で交渉される論点のいくつかを討議しつつ自らの見解を形成し、投票することが予定されている。というのも、世界の市民は地球の温暖化の進行とともに生きてゆかねばならないし、今後の気候政策のもとで生きてゆかねばならないからである。これこそが、COP15において政治的な意思決定者が交渉を行う前に、市民の意見を聞くべきだ

という本プロジェクトの趣旨である。

本 WWViews プロジェクトは国連開発計画及びデンマーク気候エネルギー大臣であるコニー・ヘデゴー氏を始めとする様々な方からの支持を受けている。コニー・ヘデゴー氏は COP15 のホスト役と共に WWViews の大使も務められる。

本件の追加情報及び報道関連の問い合わせに関しては、記者会見資料の問い合わせ先にご連絡頂きたい。

(翻訳:World Wide Views in Japan 実行委員会)